

令和2年生駒市教育委員会第6回臨時会会議録

1 日 時 令和2年8月3日(月) 午前9時30分～午後1時10分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 審査事項

(1) 議案第34号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について

4 教育委員側出席者

教育長	中 田 好 昭		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委員	坪 井 美 佐
委員	レイノルズあい	委員	西 井 久 之
委員	伊 藤 智 子	委員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	教育こども部次長	坂 谷 操
教育総務課長	山 本 英 樹	教育指導課長	前 田 伸 行
教育総務課課長補佐	小 北 敦 志	教育指導課課長補佐	八 代 大 輔
教育指導課課長補佐	日 高 興 人	教育総務課(書記)	牧 井 望
教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実		

6 傍聴者 22名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 議案第34号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について

・令和3年度使用中学校教科用図書採択について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書p1、資料1・2>

(質疑)

【 国語 】

中田教育長：国語については、2東書、15三省堂、17教出、38光村の4社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：今般の教科書選定にあたって、各教科書の発行者において、長期にわたる研究と議論をされて、今ここにある形になっているかと思う。膨大な時間と労力に敬意を表したい。その上、関係各位の調査研究をし、市民の皆様にも時間を割いてアンケートにご協力いただいた。すべてに目を通してはいるものの、会議時間内にそのすべてに言及できないことが心苦しく、その点についてはご容赦いただきたいと思う。では、国語について、各社とも教材の選定や配置のバランスに工夫がある。真っ先に目に入る目次の中に、教材の趣旨を示され、生徒が取り組みやすいように工夫されていた。目次に工夫が凝らされていると思った。古典の『竹取物語』は各社で扱われているので比較した。東書、光村については、物語が分かりやすいと感じた。中学1年生にとっては、古文はなじみにくいものだが、光村のもののように、原文と現代語訳を句読点で区切って、ルビのように並列して書いているのが分かりやすい。生徒が原文を読めたという実感を得やすいと思う。また、生駒市は、読書活動にも力を入れている。光村は、中学1年生の早い段階で、読書生活の手解きをしているように、構成されている。特に新学習指導要領では、主体的で対話的で深い学びが核になっているが、光村は言語活動が充実しており、巻頭の思考地図も実用的で良い。よって、光村を推薦する。

坪井委員：私も光村が良いと思う。教出は紙質にざらつきがあり、気になった。光村の良いところは、各章末に「話す」「聞く」「書く」のページが見開きであり、単元で学習観点について色分けして示されている。また、「学習の窓」がついており、まとまっていて分かりやすく、先生も教えやすいのではないかと。また、報道文を比較する単元があり、生徒がニュースに触れるきっかけになり、今後ますます情報の活用が重要になるので、丁度良い教材かと思う。

寺田委員：光村が見やすく良いと思う。光村には、いにしへの心に触れる、たずねる、受け継ぐと、日本の大事な心や、忘れてはいけない大事なことに触れている。

レックス委員：現行も光村で、国語と言えば光村というイメージがある。せっかくの機会なので、他の教科書も見ていると、各社とも充実していると感じた。光村は、扱っている教材や導入の仕方が素晴らしい。教出や三省堂も内容として面白い。飯島委員からもあったが、生駒市では読書活動に注力している中で、ビブリオバトルを開催しており、そのことに関する記述もあった。東書では、先生や生徒が登場し、「ことはちゃん」というキャラクターが出ており、キャラクターの漫画で具体例を提示している。今般のコロナ禍における休校のようなことがあった場合、生徒が自主的に読み進めていくのに読みやすく、面白い。以上のことから、東書も良いと思う。

伊藤委員：私は光村が良いと思う。アクティブラーニングに活用できる資料が充実している。例えば、1年生の巻頭にある思考を整理し、深め、広げるための手法、2・3年生の情報整理の手法、図表・グラフの活用方法、インタビューや話し合いの方法などは、主体的、対話的な学習のための具体的でグラフィックな資料となっている。また、物語文は他の教科で扱わないので、人生に役立つものが良いと考えており、光村ではそれを選べたと感じる。

古島委員：私も光村が良いと思う。全体の構成のバランスが良い。1年生の最初にある「思考の地図」は非常に上手くまとめられていて、情報整理に活用できそうである。また、当市でもICT環境整備を進めているところであるが、光村はQRコードが充実していて、学びの幅を広げることができそうだと感じた。

西井委員：光村は、1年生のスタート時に、「音読する時には」「発表する時には」「発表を聞くときには」と、学習のしつけの面を再確認している。また以前教育委員会でも話題になった、ノートへの書き留め方も紹介している。小学校から中学校へ進学した際の、中1ギャップの配慮がなされている。

中田教育長：委員の意見としては、特に光村が評価されている。教科国語、種目国語は38光村を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果【38光村を採択】

【書写】

中田教育長：書写については、2東書、15三省堂、17教出、38光村、116日文の5社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：書写については、各社、筆運び、書式の紹介、また新たな学習活動としてポスター・ポップづくり等が網羅されており、甲乙つけがたい。子どもたちは筆を使わず、シャープペンシルやラインマーカー等の筆記具に

こだわりを持っている。三省堂では、90ページに「進化する筆記具」が紹介されており、子どもたちは筆記具を通じて書くことに興味を持ちやすい。また、表紙の裏側に谷川俊太郎の詩の手書き版が載っており、子どもたちに、元から美しい詩だが、美しく書くことによって更に美しく感じさせられるのではないか。東書の、情報整理して書くというコーナーは、現代的な学習活動の手ほどきをしている。また、筆運びについても、小学校のころから馴染みのある「とん、すう、ぴた」等の擬態語が書いてあって、中1ギャップへの配慮がなされている。以上のことから東書、三省堂が良いと思う。

イノズ 委員：書写については、各社とも非常に良く、大変迷った。光村はUDフォントについての説明があった。当市ではUDフォントの導入も進んでいるので、改めて学ぶ機会があるのも面白いと思う。三省堂は、手紙を書く單元の中で、時候の挨拶が載っており、書写を通じて手紙を書く学習に繋がる。学校訪問をしている中で、各校ではデジタルコンテンツを使用しており、動画で見せて指導するのは分かりやすいと感じた。各教科書に付いているQRコードの映像を見ると、光村のものは斜めから撮っており、少し見づらかった。東書は、真上から自分目線で見ることができ、分かりやすいと思う。非常に甲乙つけがたいが、あえて選ぶならば東書かと思う。

伊藤 委員：どの教科書も興味・関心を高める工夫として、コラムや学習に関連した話題を取り上げているが、その中でも、東書の「文字のいずみ」や「書写活用ブック」が充実している。84ページには、書店員や動物飼育員が仕事で手書きのポップを活用していることが紹介されていた。手書きの魅力が分かり、子どもたちが書写を学習する動機づけに繋がって良い。以上のことから東書が良いと思った。

坪井 委員：東書が良いと思った。伊藤委員からもあったように、「書写活用ブック」が非常に良いと思った。生活の中で、文字がいかに浸透しているかが分かる。子どもたちは、これからの文字文化の担い手になっていかななくてはならない中で、意識的に文字を書く場面を得られるということに、非常に意味があると思う。

寺田 委員：三省堂は、資料編に便箋や封筒の書き方、時候の挨拶が取り上げられている。便箋と封筒で手紙を書くことから離れている時代に、心のこもった手紙を提案してくれる良い題材だと思った。東書も手書きの暖かき、手書きの文字の良さが書かれていたと思う。子どもが書いてみようという興味を持つきっかけになる点が良い。手書きが社会でいかに活用されているか、どのような仕事で使われているかが載っており、キャリア教育にもつながると感じた。書の楽しさが伝わってくるという点で、東書が良いと思う。

西井委員：どの教科書もそれぞれ良いところがあるが、東書はワイド判になっており、半紙の外に注釈が来ることを想定してレイアウトされている。横に置いたとき、集中して書けるのではないかと思う。

中田教育長：委員の意見としては、特に東書、三省堂が評価されている。特に、東書という意見が多かったので、教科国語、種目書写は2東書を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果【2東書を採択】

【 地理 】

中田教育長：地理については、2東書、17教出、46帝国、116日文の4社である。委員の皆様のご意見を頂きたい。

飯島委員：各社ともに、表紙デザインや内容がよく似ている。出版社の個性より、地理的分野の教科書として、編集がしっかりなされているためであり、単純に判断しづらい。以前は、印刷が光って見づらいものや、色が濃すぎるものもあったが、どこも改善されている。今後は、地域のあり方を考えることが、特に社会科において重要になってくる。帝国や教出では、ブロックごとに地域の課題を記載しており、巻末で地域課題へのアプローチを総括していた。また、帝国は統計資料も充実しており、写真等も比較的大きく、見やすい。学習の流れについては、振り返り、習得事項を活用する問いかけとして、「確認しよう」や「説明しよう」のコーナーがあり、学習の定着だけでなく、主体的・対話的で深い学びへの提案ができて印象である。総合的に見て帝国が良いと思う。

レイルス委員：飯島委員からもあったが、地理も各社大きな違いが無く、選択が難しく感じていた。地理に限らず、様々な教科書において、SDGsが取り上げられており、非常に良い切り口だと思う。帝国ではSDGsの地理的な分野に関連する項目について、巻頭に見開きがある。また、地理は領土問題をどう取り扱っているかについても注目していたが、「領土問題はない」「領土問題はないが、慎重な話し合いが必要」等の中立的な表現に留まっており、極端なものはなかった。また、EUの問題について、現在はイギリスが離脱することとなっているが、教科書の作成段階ではその状況ではなかったため、離脱予定という表現になっている。地理とは教科書が出来上がったときと実際に子どもたちに教えるときで、状況によって変わっていくものなので、先生方は教科書を使いながら、項目によっては変更点についても伝達しなくてはならない。帝国の振り返りやまとめが、EUに限らず、テスト形式ではなく思考での振り返りが多いので、思考や表現力が鍛えられるのが良いと思う。以上のことから、帝国が良いと思う。

坪井委員：私は教出が良いと思う。「地理の窓」において、生徒が興味関心を持てるような内容が多い。例えば「ハリケーン被害と差別」「カレーから見た食文化」等、切り口が秀逸で、視点が変わる様な工夫がある。また、「浜松市の多文化共生」もあり、全世界や日本で実際に起こっていることが分かるので、関心を引きやすいと思う。

伊藤委員：本文、コラムがともに良いのは教出、帝国の二社かと思う。私は特に教出が良いと思った。文章が非常によく練られていて、端的にまとめられている。見出しの言葉も、本文の内容を単に体言止めにしてはなくて、本文の内容を凝縮した形になっているので、そこを読めば、本文に何が書いてあったかを思い出すことができる構成になっていると思う。扱っている題材についても、EUの中で起こっている独立運動や難民問題、アメリカの突出した軍事力、循環型農業等、幅広くトピックを扱っている。世界遺産マップやジオパーク・マップなどは、子どもの関心をひきやすいと思う。帝国にも言えることだが、自分の言葉で説明させるディスカッションが充実しており、主体的な学びを促進させることが出来るだろう。どちらも良いが、帝国には用語解説が無いので、選ぶならば、教出が良いと思う。

古島委員：私も帝国と教出で迷ったが、帝国が良いと思う。特に世界中の風景の写真について、使用されている写真が良く、視覚的に生徒たちの興味を引く素材がうまく散りばめられている感じがした。学びに関しては、章や節の学習の振り返りがしやすく、知識の部分で整理したことを、最終的に、思考力・判断力・表現力の欄で深掘り学習ができそうである。また、ICT活用の観点について、QRコードが要所で入っており、時差の調べ方の練習や写真の読み取り方等、より具体的な演習ができるようになっている。以上のことから、帝国が良いと思う。

西井委員：私も帝国が良いと思う。「日本の諸地域」において、近畿地方で吉野杉の林業と歴史的景観について記述されている。教出には、奈良の記述がなかった。

中田教育長：委員からは、帝国と教出を推薦する意見が出ている。教育現場から出ている意見には帝国がある。以上のことから、教科社会種目地理については、46帝国を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【46帝国を採択】

【 歴史 】

中田教育長：歴史については、2東書、17教出、46帝国、81山川、116日文、227育鵬社、229学び舎の7社である。ただし、229学び舎につきましては、見本本の送付が無かったため、審議対象外とする。なお、

歴史の教科書の記述については、様々な意見があるが、すべての教科書が検定を通過しているという認識のもとで検討を行いたい。委員の皆様のご意見を頂きたい。

飯島委員：今回、山川が新しく追加された。高校の教科書として馴染みがあり、編集も適切にされている。ただ、小学6年生で通史的に日本の歴史を学び、学校によっては、中学1年生で地理と歴史を同時並行で学ぶことになるので、小学校での学習内容を踏まえての接続という観点では、難しいと言う印象がある。結論から言うと、私は東書か教出が良いと思っている。章の冒頭で、年表を含めてその時代のイメージを提示することで、その時代がどういう時代になったのかをつかませようとしているが、その点については、各社ほぼ同じような形である。個人的には、教出は各章の導入が魅力的で、「クリスマスまでには帰れるさ」「我が家にテレビがやってきた」など、硬い歴史の教科書という印象が薄く、子どもたちが興味を持ちやすいものになっている。しかし、懇話会では、学習内容が把握しにくいという意見があったので、一長一短があるかもしれない。総合的に、東書か教出を勧める。

イリス委員：検定を通過した教科書ではあるが、歴史問題についての事項がどのように記述されているかが、その教科書の特色でもある。公教育なので、表現は中立的なのが望ましいと思う。育鵬社では、太平洋戦争を大東亜戦争と記述しており、偏りが感じられる。南京事変をどう扱っているか見ていたが、育鵬社は「日本軍によって中国の人民に多数の死者が出た」としており、東書は「女性や子どもなど一般の人々や捕虜を含め、多数中国の人を殺害した」という記述になっている。何をもって中立的というかは議論があるかもしれないが、日本の罪を認識する必要があると思うので、その点が国際社会の認識の中で、バランスの取れたものが良いと思った。その点で言うと、東書のバランスが良いと感じた。また、帝国では、女性の社会進出について、与謝野晶子や平塚らいてふの出産や育児についての意見が取り上げられていて、考えるきっかけが提供されているのが良いと思った。ただ、総合的に考えると、東書が良いと思う。

寺田委員：これからの課題として、若い方に環境問題や災害について考えてほしいと思っている。災害の歴史について確実に学ぶべき。日文では、300ページに「災害の歴史に学ぶ」があり、防災・減災に役立つ部分になるので、子どもたちに学んでほしいと思ったので、日文を推薦したい。

古島委員：歴史的な記述が各社で異なるので難しいと感じた。高校教員なので、山川に関心あったが、中学校の教科書にしては、ボリュームが多い。他の委員からも意見が出ていたが、教出の見出しについては、個人的には面白くて良いと思った。ただ、先生方の中には違和感がある方もいるだろう。結論から言うと、東書が、歴史的記述とコンテンツのバランスが良

いと感じた。QRコードの中身についても、クイズや映像等で学びの幅を広げることができそうである。探究活動について、学習の振り返りにおいても、知識だけでなく、探究活動に広げていくステップがあり、深まりを感じた。最後に、まとめの学習活動では、思考や内容の整理に様々なチャートが紹介されていて、情報整理に役立ちそうである。

西井委員：歴史については、現場の調査部会等によると、東書が支持されている。現場が使いやすいものが良いし、また、他の委員からもあったように、バランスが良いので、東書が良いと思う。

中田教育長：委員からは、東書を推薦する意見が出ている。教科社会種目歴史については、2東書を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

【2東書を採択】

【 公民 】

中田教育長：公民については、2東書、17教出、46帝国、116日文、225自由社、227育鵬社の6社である。なお、公民の教科書の記述についても、様々な意見があるが、すべての教科書が検定を通過しているという認識のもとで検討を行いたい。では、委員の皆様のご意見を頂きたい。

飯島委員：各社とも、表紙や内容等については、類似しており、単純に選ぶことはできない。例えば、メディアリテラシーの育成やネット情報との関わり方を考える機会を与えるような記述は各社にあり、その記述の有無を基に選定することはできない。各社の努力によって、教科書の水準が上がっている。私の意見としては、東書が良いと思う。人権の取扱いが良い。人権については、どの地域でも共通して重要な項目かと思うが、特に、いじめを許さないという姿勢を強く打ち出している本市における学びについては、「いじめはいけない」ではなく「人権は尊重されるべき」と学ぶ機会を与え、公民分野をベースとした人権概念、人権を尊重する心を導きたい。東書では、一章使って人権について丁寧に扱っているので、東書が良いと思った。

レノルズ委員：公民も、様々な議論がある項目を扱う教科であり、領土問題、国旗国歌法、自衛隊等に関する記述を比較した。出版社ごとに考え方はあると思うが、育鵬社はやや偏りがあると思った。東書は中立的で、バランスが良い。自衛隊についても、集団的自衛権の解釈とその憲法違反について、賛否両論があることまで言及している。論議に上がっているトピックについて、なぜ論議に上がっているのかということまで記載し、公民を通じて考えるきっかけになってほしい。様々な意見が紹介されているべきだと思うので、その観点からも、東書が良いと思う。

西井委員：私も、様々な内容が網羅されている東書を推薦する。日文も、情報モラル等、当市の課題についても適切に書かれているので、魅力的だと思った。飯島委員からもあったが、東書では差別や人権について、「部落差別」「アイヌ民族への差別」「在日韓国・朝鮮人への差別」「男女平等」「性の多様性への理解」「障がいのある人への理解」「在日外国人への理解」等、4ページにわたって記述され、重要な内容を抑えている。特に、部落差別については、奈良県の人も水平社設立から関わり、今なお、今日的な課題である。差別問題については、しっかりと抑えたい。総合的に考えて、東書が良い。

伊藤委員：私は、教出が良いと思う。かつて、『あなた自身の社会』というスウェーデンの教科書が話題になったかと思う。教出の教科書はその教科書に通じる視点で構成されていると感じる。生徒自身が今後社会に出て、どう生きていくかという視点から、社会の諸制度や市場のあり方について、自分自身との関わりから説明されている。その姿勢は、どんなテーマにより多くページを割いているかという点からも見て取れる。例えば基本的人権について、他社の1.5倍のページ数を割き、社会保障制度にも最多の分量を割いている。新潟の巻原発の建設が住民投票により廃止された事例を取り上げたコラムは、私たちが行動を起こせば、社会を変えられるということの例示であり、市民をエンパワーする内容だ。社会の一員であるという自覚を促し、何かできると感じさせてくれるのが良い。また、資本主義経済、グローバル化、国際分業、自由貿易等、今の潮流ではあるが、従来から賛否両論がある。様々な利害や価値観が対立し、論議が分かれる問題について、負の側面にも触れているのは、教出しかない。バランスの取れた視点を丁寧に出していると思った。また、投資についても、投機という言葉を用いて説明している。また、豊かさとGDP成長はイコールではないこともコラムで触れている。子どもたちが社会に出ていくときに必要な知識を提供している。

古島委員：私は東書が良いと思う。特設ページで「もっと公民」や「18歳へのステップ」でこれからの世の中や、18歳から選挙権が与えられたことに伴い、18歳に向けての準備を意識できる学びが提供されていて、良いと思った。「みんなでチャレンジ」はグループで取り組む活動があり、主体的・対話的な深い学びができるのが良い。現場の先生方の目線では、各章ごとに導入からまとめまで、上手く構成されており、先生方や生徒も扱いやすい教科書になっている。QRコードにより、ICT機器を使った学習や、地理・歴史との関連性も見ていくことができる。QRのコンテンツ、公民だが、地理、歴史の関連性が分かりやすいと感じた。

飯島委員：地理・歴史のように学問分野に近いものは、学問分野をベースに編集しやすい。公民は様々な学問分野に関わり、また実社会にも関わりが深い

ので、いくら書いても書ききれない。ご指摘があった項目について、すべての出版社が網羅することは困難だと思う。あくまで判断基準は学習指導要領だと思っている。授業場面で子どもが見やすいか、先生方が教えやすいかという、本としての教科書の良さも、評価のポイントになる。特定の内容の記載の有無だけではなく、総合的な判断が必要だと思う。

中田教育長：委員からは、東書、教出について意見が出ているが、東書を推薦するご意見が多かった。教科社会種目公民については、2東書を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【2東書を採択】

【 地図 】

中田教育長：地図については、2東書、46帝国の2社である。では、委員の皆様の
ご意見を頂きたい。

飯島委員：昨年までは、重さを量っていた。ただ、まず国語を量るとほぼ同じで、他の教科についても、大きく変わらなかったのも、各社とも配慮がある。2社を比較すると、面積が15%ほど、帝国の方が大きい。以前は大きいものは良くないと思っていたが、地図に関しては、大きい方が良い。同じものが載っていれば大きいほど見やすく、追加情報も入れやすい。ただ、東書は小さいものの、アジア地方の地図を縦方向に見開きにして、オーストラリアまで含める等の工夫が見られる。帝国書院は、地図帳の使い方について、分かりやすくまとめられている。また、地図からの発展学習につながる課題や資料などが各ページに取り入れられ、地図に工夫が盛り込まれている。以上のことから、帝国が良いと思う。

西井委員：帝国は大判で見やすい。また、地図の中身についても、関東圏からの修学旅行用なのか、奈良市の中心部、大和郡山市、斑鳩町の地図が取り入れられ、明日香村の航空写真も載っている。東書にも奈良市内の地図が出ているが、帝国の方がしっかりと見やすい。また、統計資料として、通勤・通学者が関西圏でどのような動きをしているか、地図上で表記されていて、授業で使いやすい。

古島委員：私も帝国が良いと思う。「地図活用」のコーナーがあり、読図のスキルアップの仕掛けがある。世界的問題である環境や防災のコーナーがあり、地図から更なる学びを発掘できそうである。

中田教育長：委員からは、帝国を推薦する意見が出ている。教科社会種目地図については、46帝国を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

【46帝国を採択】

【 数学 】

中田教育長：数学については、2 東書、4 大日本、1 1 学図、1 7 教出、6 1 啓林館、1 0 4 数研、1 1 6 日文の 7 社である。委員の皆様のご意見を伺いたい。

飯島委員：各社とも編集が適切なので、判断が難しい。同じテーマで、各社の記述の違いを比較した。数研の「数の学習」で正の数、負の数を扱うとき、大きな日本地図に、東京をゼロ度として、北日本をマイナス、西日本をプラスになるように表記して説明しているところが、直感的に分かりやすく感心した。また、空間図形を子どもたちの感覚に馴染ませようとする際に、建築物の写真を用いている教科書が多かった。どの建築物を載せるのか、どの角度からの写真を用いるか、どの大きさが空間図形と比較しやすいかという観点から見たとき、数研出版の選び方が良いと思った。また、数学的な概念の定義づけが学年ごとに難しくなっていく。数研の説明が明快である。以上のことから、数研を推薦したい。

レノルズ委員：中学校の数学は内容が難しくなってくる。分かりやすくする工夫が良かったのは啓林館で、巻末に自分から学ぼう編があり、面白い工夫がされている。先生が教えるときだけではなく、子どもが家庭で使いやすい教科書であることも重要な観点である。プログラミングも含まれており、重要である。また、数学を勉強していく中で、社会で何に役立つかとくじけてしまう子もいる。大日本の「社会にリンク」では、数学と実社会や職業とのつながりを紹介している。例えば、2 年生で習う一次関数が、鉄道の運行管理に活用されていて、鉄道好きの子には響くと思う。何を目的に勉強しているのかがリンクされているのが良い。また、確認問題の数も比較した。東書や啓林館は現行の数研よりも数が多い。数学は反復練習が重要なので、問題数が多いのは良いと思う。以上のことから、東書、大日本、啓林館のいずれかが良いと思う。

寺田委員：数研は自分で学ぶ力をチェックする項目があり、自分の実力を客観的に評価ができるのが良いと思う。また、日文はゆとりがある書き方をしている。数学は学習量が多いので、一概には言えないが、1 年生の 6 ～ 7 ページでは、「数学的な見方、考え方を身につけよう！」とあり、重要な内容が分かりやすい。1 年生を中心的に見たときに、小学校からの繋がりを考えると、算数からの確かめが充実していて、算数から数学に入りやすいと思った。また、巻末の「対話シート」も、ノートに貼って残せる形になっており、時間がたっても学習の振り返りができ、効果的に思える。以上のことから日文を推薦する。

神澤委員：巻末の索引を比較すると、日文のものが、英語が併記されている。中学から高校、大学の学びへつないでいくことを考える。ICT 機器を活用した学びがさらに増えていく中で、少しでも印象に残っていると、その後の学びへの興味がつながっていく。以上から、日文が良いと思った。

伊藤委員：私は啓林館が良いと思う。文章による説明が充実していて、簡潔ながらも分かりやすく、しっくりくる。各社大きな違いはないが、数学ライブラリで取り上げられている題材に、興味がわくものが多いと感じた。また、練習問題も多いので、啓林館が良いと思う。

坪井委員：啓林館は、1ページに載っている情報量が多く、問題数も多く、段階的で非常に良い教科書である。この傾向は学年が上がるごとに顕著で、数学好きには良いが、数学を不得意に思っている子には難しいかもしれない。その点を考慮すると、数研の方がバランスが良いと思った。

西井委員：私は、現場が希望しているものを採択したいと思っている。坪井委員からもあったように、理数系が得意な子にとって良い教科書、苦手な子にとって良い教科書が異なる。啓林館は得意な子には良いが、一方で教出、日文は小学校の教科書からの接続を意識していて易しい。数研か東書が、バランスが良いと思う。

飯島委員：当初は、ノートの取り方を書いている教科書を見て良いと思ったが、見れば、全社とも書いていた。また、見やすさについては、先生が見て見やすいか、子どもが見やすいかは、人によってそれぞれなので、基準にしにくい。補足になるが、数研は別冊がある。以前、別冊があると、子どもは無くしやすいという意見があった。そのような意見もあるが、学びから発生する疑問や、日常生活で数学が活かせる課題が、別冊の中に取り上げられている。探究的な学びの機会になるので、この別冊は肯定的に評価したい。

古島委員：例題の見やすさ、問題の質、量のバランスが、数研が良いと思った。説明部分にキャラクターが出てきて、対話の中で、一つの問題に対して様々な解き方が紹介されており、数学が苦手な子にも分かりやすい。また、飯島委員からもあったように、別冊の探究ノートは、授業の中でどれだけ活用できるかは未知数だが、テストの後の振り返りや夏休みの課題にもなる。日常生活に絡む部分もあるので、教科横断的に、総合的な学習でも使えるかもしれない。以上のことから、数研が良いと思った。

中田教育長：委員の意見としては、日文、啓林館、大日本図書、数研について、意見があった。現場からは数研の希望が挙がっている。総括すると、数研を推薦する意見が多かったと思う。以上のことから、教科数学、種目数学については「104数研」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【104数研を採択】

【理科】

中田教育長：理科については、2東書、4大日本、11学図、17教出、61啓林館の5社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

飯島委員：各社とも観察や実験の機会を設定しており、学習指導要領に則っている
ので、選びにくい。現行は啓林館を採択し、その際は別冊が付いていた
が、今回はなくなった。別冊がなくなった分は、教科書本体に取り込んだ
形かと思う。目次では、右側に観察、実験、コラム、資料が載っており、
一冊の教科書の中で何を学べるかと、子どもたちは期待しながら見
通しを持つことができる。他の教科書よりも情報量が多いものが見やす
い点が評価できる。教科書の使い方や自然科学へのアプローチ等、何を
学ぶかではなく、どう学ぶかまで分かり、手掛かりになっているのが良
い。東書も、問題の発見から研究に至るアプローチについて紹介され、
子どもたちが自分で科学的思考をしていこうというモチベーションを
高められる。ただ、東書は判型が縦長で、馴染みづらいおそれもあるが、
私の意見としては、東書と啓林館が良い。

坪井委員：私も啓林館と東書を中心に見たが、東書の変型判が若干見づらいと感じ
た。啓林館は内容的に創意工夫があると思う。「部活ラボ」や「お料理
ラボ」「お仕事ラボ」等のコーナーでは、身近に理科を感じられる仕掛
けが多い。話し合いをしながら探求できる形式なのが良い。マグマにつ
いての単元で奈良県の鍋倉溪の写真があり、兵庫県の玄武洞が紹介され
ていて、行きたいと思ったときに行ける場所が取り上げられている。

西井委員：啓林館はこれまでも使用してきた教科書で、非常に良い。東書も1年生
の導入に、「科学で調べていこう」という形で理科への導入が見開きにな
っている。また、「理科室でのきまり」において、授業のしつけにあ
たる部分も見開きになっており、しっかり身につけられると感じる。小
学校でも学ぶ内容であるが、万が一の事故への対応や応急処置の仕方も
書いている点で、東書も良い。以上のことから、啓林堂と東書のどちら
かが良いと思う。

イノグ委員：東書のものが、細長くなってしまったが、現場や懇話会の意見はどうか。

前田課長：観察や実験の流れを縦に表記し、見やすく手順をたどりやすくなった。
懇話会では、タブレットを使用した授業をする中で、教科書が邪魔にな
らないという意見もあったが、幅が狭くなったため、自然に閉じやすい
という意見や圧迫感があるという意見も出ている。

伊藤委員：啓林館が良いと思う。まず、写真の質が良く、また日常生活に関連性が
高い内容がコラムにも記載されているので、授業以外の時間にも手に撮
ってみたい、わくわくする教科書だと思う。

古島委員：私も啓林館が良いと思った。教科書の見開きが、「探究のとびらを開い
てみよう」で始まり、いきなり正解のない問いから始まるところが非常
に斬新だった。内容も知識の習得にとどまらず、「探究の過程」に、深
掘り学習もできそうである。また、巻末の探究シートはグループ学習や
長期休暇中の課題として幅広く活用できる。

中田教育長：古島委員のご意見にあったように啓林館の探究の部分は、高校の化学につながる発展的な内容で面白いと思った。では、委員の意見を総括すると、啓林館、東書を推薦する意見が出たが、どちらかと言うと、啓林館を推薦する声が多い。教科理科、種目理科については、「61啓林館」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【61啓林館を採択】

【 音楽一般 】

中田教育長：音楽一般については、17教出、27教芸の2社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

飯島委員：2社とも、伝統的なものから、子どもに馴染みのある最近の曲まで、馴染みやすいものを選んでいいる。教出は、「歌う、つくる、きく」、教育芸術社は「表現（歌唱・創作）、鑑賞」の観点で構成されている。表現は異なるが、構成は基本的に同じ。目に留まったのは、歌う姿勢の指導で、イラスト入りになっており、教芸はイラストが大きく見やすいほか、「自分の声を見つけよう」と書かれている。中学生は歌うのを恥ずかしくってしまう。どの声にも魅力があり、自分なりの声を出してみようと提案し、そのことに気付くよう促しているのが魅力的なので、教芸が良いと思った。

寺田委員：私も教芸が良いと思う。歌うことに対して、自分たちの表現を工夫しようとして訴えている。上手下手ではなく、自分の心の表現を工夫するように伝えている。思わず口ずさんで、歌が好き、音楽が好きと思える教科書が良いと思っていたので、教芸を推薦する。教育出版は、歌うための準備というところから入っているが、音楽は情操教育であり、心を表現する点を訴える方が良い。

イリス委員：小学校の採択の際、音楽では国歌の取扱いについて議題に上がっていた。中学も比較した。教芸は、自国・他国の国歌を尊重することが書かれている。教出は、日本の国歌に誇りをもって歌うように書かれており、少し主観的な表現である。非常に問題のある表現ではないが、よりふさわしいのは教芸だと思った。

古島委員：私も、国歌の取扱いが対照的だったと思った。もちろん、自国の国歌に誇りを持つことは大切なことだが、一方、オリンピックやワールドカップ等において、他国の選手が国歌を歌うシーンもよく放映されているかと思う。その観点からも、自国だけでなく他国の国歌も尊重する考え方は、これからの時代に大切だと思う。以上のことから、教芸が良い。

中田教育長：委員の意見を総括すると、教芸を推薦するものが多かった。教科音楽、種目一般については「27教芸」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【27教芸を採択】

【 音楽器楽合奏 】

中田教育長：器楽合奏については、17教出、27教芸の2社である。委員の皆様の
ご意見を賜りたい。

神澤委員：課題曲を比較していた。教芸では『魔女の宅急便』『世界に一つだけの
花』等、馴染みやすく良いと思う。

飯島委員：私は、教芸が良いと思う。まず、学習の見取り図を示し、この教科書で
何が学べるかが分かる。また、ギターが載っているが、今の中学生はバ
ンドを目にする機会が多く、馴染みのある楽器だと思う。クラシックだ
けではなくフォークやエレキも取り上げているので、親しみやすい。本
文では、2社ともクラシックギターの演奏方法が記述されているが、親
しみを持てるものが載っている方が良い。採択は別途なので、一般と器
楽を必ずしも同じ出版社としなくてはならないわけではないが、楽譜の
書き方やサイズが演奏のしやすさにつながる。子どもたちは楽譜への馴
染みがないので、一般と器楽で同じ見栄えの方が、先生も子どもも良い
と思う。

古島委員：私も教芸が良いと思った。全体としては、学びの解説が分かりやすい。
また、琴の譜面やギターのコード表があり、見やすい。飯島委員からあ
ったように、ギターの紹介について、高校、大学に上がると、軽音楽を
たしなむ子も多く、関心が高いので、一つの楽器としてエレキギターが
紹介されているのが良いと思う。

中田教育長：私は、教科書が自然と閉じにくく、見ながら演奏しやすいものが良いと
思う。では、委員の意見を踏まえると、教芸の意見が多かった。教科音
楽、種目器楽合奏については、「27教芸」を採択することに異議ない
か。

(異議なし)

審議結果 【27教芸を採択】

【 美術 】

中田教育長：美術については、9開隆堂、38光村、116日文の3社である。委員
の皆様の意見を伺いたい。

飯島委員：美術については、表紙で関心を引き、美術の教科書をめくりたくなるこ
とが、動機づけにつながると思う。各社とも魅力的な表紙となっている
が、個人的な好みでは、木彫りの文鳥が良いと思った。その様に、美術
は子どもを作品によって感動させることで、学習に惹きつけることが重
要になると思う。また、各社とも、学習の目標を子どもたちに示し、何

のために学習するのかということ伝える工夫がされている。先生だけでなく、子どもたちと何のために学習するのかを共有できているのは、各社とも共通している。また、光村のみ幅が狭くコンパクトだが、折込みがあり、開くと仕掛けが見えるなどの工夫が印象的である。和紙のページがあったり、『最後の晚餐』をトレースできる用紙が付いているのも面白く、光村を推薦したい。

寺田委員：光村は自然の形や色を見つめ、本物らしさを追求している点が良いと思う。ただ、日文は原寸大の絵が描かれていて、授業で子どもたちの心に残る紙面構成がされているのが良い。单元名にも工夫がみられる。例えば、「じっくり見ると見えてくる」「人間って面白い」「材料に命を吹き込む」など、想像力を掻き立てるような表現をしている。はっきりしていて目につく絵や写真の表現がされている。以上のことから、日文が良いと思う。

レノルズ委員：美術は各社とも非常に良い教科書で悩んだ。各社ともビジュアルも大きく分かりやすく、大きな差が無い。どの教科書も面白い授業の導入になっていた。光村は現行の教科書であり、トレーシング素材や、ゴッホと北斎の関わりが丁寧に説明されているのが面白いと思った。一方、日文はサイズが大きく、表紙もインパクトがあり、作品も幅広く取り上げている。サイズが大きいと、中の作品の写真も大きくなる。内容としては、天理のコフフンや大阪ステーションシティ、太陽の塔など、身近なものが取り上げられており、奈良からも近いので実際に行くこともできる。かなり悩んだが、実際に訪れられるという点で、日文が良いと思う。

飯島委員：光村について、和紙で鳥獣戯画が紹介されている。各地で何度か展示があったが、教科書の光沢のある紙で見ても本当の良さが伝わらない。和紙で印刷したもので完全に伝わる訳ではないが、本物の良さを伝えようとしている点が好感を持てる。また、ICT教育を進めるに当たって、QRコードが多い点も、評価できる。

西井委員：教科書展示会のアンケートにおいて、QRコードのリンク先に使えないコンテンツもあると書かれていた。実際はどうか。

前田課長：基本的には、教科書会社のホームページにリンクされており、関連する作品の画像や説明動画を見ることができる。ただ、中には、美術館のホームページやNHK for school、作者のホームページにリンクされているものがあった。すべてを確認できていないので、一概に評価はできないが、一般的に、教科書会社がつけている動画や資料集が多い。

西井委員：教科書の最初にQRコードの解説があった。学校訪問の際、大型モニターを美術でも活用している学校があり、非常に見やすかった。今後、タブレット配置がされてからは、QRコードが題材になると思う。今後、

更に発展的に使いやすいコードにさせていただきたいので、更に注目して
いきたい。私は、総合的に見て、日文が良いと思っている

神澤委員：光村の2・3年の裏表紙に草間弥生さんの作品がある。心の病を抱えながら、素晴らしい作品を作り出している。ゴッホも晩年辛い時期があった。美術から、人間の背景や心のエネルギーの素晴らしさに触れてほしい。私は光村が良いと思うが、懇話会や学校での反応はあるか。

前田課長：教科書選定懇話会では、光村は絵を描くポイントが細かく示されているので、絵を描くことを苦手にして子どもへの手だてにもなり、使いやすいという意見だった。しかし、現場の美術の先生の声では、日文が教えやすいと聞いている。

神澤委員：現場で指導している先生が、教えやすいのであれば、尊重していただきたい。

古島委員：QRコードは光村が良いと思った。内容は、どれも興味をそそるものだったが、日文が良いと思った。2・3年が上・下で別れていて、充実していると思った。芸術という観点では、日文1年生10ページに、「あなたらしさを見つけて」とあり、音楽でも意見が出ていたが、美術を通じて自己表現、個性を尊重できると思う。子どもたちには、歌や美術作品を通じて自分らしさを出してほしいと思った。

中田教育長：委員からの意見では、日文を推薦する声が多かった。教科美術、種目美術については「116日文」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【116日文を採択】

【 保健体育 】

中田教育長：保健体育については、2東書、4大日本、50大修館、224学研の4社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

古島委員：細かく取り扱っている項目を見ていると、それぞれ違いがあり、良いところがあるが、全体的に見ると、大修館が良いと思った。特に感染症の項目が詳細である。また、性への関心と行動については、各社取り扱われているが、SNSの危険性がリンクして掲載されているのが良いと思った。自画像を撮影したものがSNSで拡散される被害が社会的な課題になっているが、その点を「保健の窓」において取り上げているのが良いと思った。

レィルズ委員：東書でも情報モラルを取り上げており、自撮り画像の被害や危険性につなげているのが良い。この点を異性の尊重と性情報への対処に関連付けたのが良い。異性を尊重するという点はどの教科書にも書かれているが、「自分だけの気持ちや性衝動に任せて行動すると、相手を傷つけたり、望まない妊娠を招いたりする」という記述がある。望まない妊娠まで言

及しているのは東書だけである。中高生は子どもだけど、体は大人に近づいているので、問題が起こらないようにきちんと言及しているのが良い。また、体の性だけではなく、心の性についても、思春期でいろいろと感ずることがあると思う。学研では、LGBTについて、ある特定の人物の紹介で、かなり客観的な記述だと感じた。大日本は記述が無い。大修館は38ページに、男性らしさ、女性らしさにこだわると互いを傷つけてしまう可能性があるとは書いていた。東書は44ページの巻末資料に、性の多様性、性同一性障害について記載している点も評価できる。

神澤委員：思春期の子どもたちにとって心と体の健康に配慮することは、非常に重要である。また、SNSについては、東書では46ページにおいて、インターネット依存症について、詳しく書いている。他は小さなコラムや数行触れている程度だが、1ページ使っているので、子どもたちにもその重要性が伝わりやすい。WHOでは、インターネット依存症は正式な診断名となっている。成長過程の子どもたちにとって、いかに重要な課題であるか、東書の記述なら分かりやすい。

西井委員：私は大修館が良いと思う。保健の学習は、今現在の自分、近い将来に起こる体や環境の変化に対処することについて、知識理解することが、保健の学習の中心である。性の多様性は、学習指導要領上は載っていない内容である。保健で扱うかは出版社によって異なるというのは、必須の内容でないからともいえる。性の多様性について、学校の状況を見て判断するのが良いと思う。該当の子がいたとき、どう感ずるかは本人次第で一概に言えないので、直接授業で扱えるかはわからない。逆に、教科書に載っていないなくても計画的に扱うこともできる。

伊藤委員：性的違和について、教科によって教え方は変わる。道徳だと、他者の多様性を受け入れるという道徳的観点、社会科ではマイノリティの人権や法制度という視点で扱われる。保健体育で扱うことには意味があると思う。ジェンダー問題としてではなく、子どもたち自身のセクシュアリティ、性的指向に関わるからだ。13～15歳が最も性的な発達をする時期かと思う。また、LGBTは潜在的には10人に1人とも言われており、自分自身の心と体の問題感じている生徒が潜在的にかなりいると考える必要がある。ジェンダーによって気づけなくさせられていた部分もあるので、教科書で見て、自分を受け入れる安心材料となればよいと思う。東書は109ページにインターネット依存症のチェックリストがあるところも良いと思う。以上のことから、東書が良いと思う。

坪井委員：自己形成の部分で性的な違和感があることは、中学生にとって、大きな問題だと思う。体と気持ちが違うことで、心のバランスを崩しやすく、自傷行為をしている子も実際にいる。子ども自身がインターネットで調べることもあるが、教科書に書いていることなら安心できると思う。ま

た、子どもが性の違和感を告げたときに、保護者に否定されることがあり、非常に辛い思いをしている子どももいる。左利きの人と同じくらいの割合でいるということが教科書に載っていることで、保護者にとっても知るきっかけになり、救われる子どももいるのではないか。以上のことから、東書が良いと思う。

レイルス 委員：西井委員から、学習指導要領に入っていないというお話があったが、伊藤委員からもあったように、マイノリティという人数の問題ではなくなっている。扱うかは学校次第だが、課題自体が教科書に載っていないと、そもそも話題にも上がらない。課題となる項目として教科書に載ってほしいと思う。

飯島 委員：西井委員から、学習指導要領に載っていないというお話があったが、確かに学習指導要領に載っていないものは、教科書に載せることは必須ではない。性的マイノリティについては、制服のスカートとズボンの選択式になっている学校もあり、女子はスカートをはくものだという考えは、社会的通念として、おかしいと考えられるようになってきた。教科書に書いていなくても、スカートとズボンの選択肢があることから学ぶ機会もあると思う。また、東書はパンフレットを見ていると、今日的な教育課題を重視して盛り込むことを魅力としている。そうならば、東書にはあって他の出版社の教科書にない項目があって当然だと思う。生駒市の小学校の教科書採択の際、LGBTについて記載されていた記憶があったので、事務局に問い合わせたところ、保健体育に性の悩みという項目が挙げられていた。自分の体の性と心の性が異なると感じている人や、異性に関心が持てないと感じている人がいるかもしれないし、そういう人がいたら相談して良いなどの内容があった。また、LGBTに関する項目は、当初は、保健体育だけではなく、高校の家庭科や倫理から始まった議論になっていた。保健体育だけがこれを担うべきではなく、学校教育全体で取り扱うべきものだと思う。採択の際、この議論があったことは先生方に伝わっていくので、扱う必要性を先生方が意識して現場で使用していくことが重要である。テキストをそのまま記憶することがすべてではないので、子どもの学び方をどの程度サポートできるかという観点では、大修館の方が、課題をつかむ導入から章のまとめまでの流れが、子どもたちに興味を持たせて、子どもたちに他の場面でも応用できる思考方法を身につけさせられると感じた。各社とも学習指導要領に書かれている構成だが、大修館は具体的な主体的・対話的で深い学びが、子どもたちの学習として実現できるように提案されていて、特に優れている。他社は怪我を傷害としているのを、大修館は「けが」としており、箇条書きではなく、文として書いているので、子どもが関心を持って学習課題に入りこみやすい。38ページや55ページの「掘り下げる」「相

談窓口」についても、子どもが悩み事についてSOSを発信しやすい配慮がある。記述項目の量は東書に至らないかもしれないが、全体的に見て、大修館が良いと思う。

レノルズ 委員：飯島委員は体系的に見ておられるが、私は項目ごと見させていただいた。

生駒市で使用する保健体育の教科書としては、他に熱中症についても重要なので、比較した。大日本が最も丁寧であり、熱中症の定義、熱中症になりやすい条件、応急手当等、一つの見開きで紹介している。子どもだけで読んでも分かりやすく、自分自身の安全を守ることができるものになっている。その次は、東書と学研である。熱中症が起こるメカニズム、発生要因は環境だけでなく自分の体のコンディションや運動量によって異なる点について記述している。東書は見開きで熱中症の手当てについて分かりやすく記述されている。また、応急処置については、冷却は首等の血管が太い部分を冷やすのが良いが、東書はその点が明確ではないのが残念に感じた。大修館は、気象情報の適切な利用の中で熱中症を予防すると記載していた。また、別のセクションにおいて、応急手当についてもページの半分を使って記述している。特に集中的に冷やす部分を書いているのが、良い。ただ、熱中症に関連するページが分散しているのが残念に思う。熱中症の記述については、集中して書いている東書、大日本、学研が良いと思う。

寺田委員：私は大修館が良いと思う。2年生で、低年齢化している喫煙、飲酒、薬物乱用を取り上げて、健康を害するのについて詳しく書いている。3年生では感染症の予防が取り上げられており、新型コロナウイルス感染症が現在猛威を振るっている中で、感染症予防についても丁寧に書いている。今後もこの状況は続くと思われるので、今までの反省も含めて、今後の取組のために必要である。また、他の委員が仰っている性的マイノリティも重要な項目である。どの教科書も素晴らしいと思うので、現場の先生方の意見が重要になるのではないかな。

前田委員：教科部会は第一希望に大修館、第二希望に東書である。学校調査は東書と大修館で同じ比率になっている。

中田教育長：生駒市の教育課題として、熱中症対策、SNS盗撮事案では情報モラル、性の多様性、道徳分野で言うと人権に、関連していくと思う。以上の点については、保健体育だけに限らず、教育現場で扱うよう、校長会を通じて学校に連絡している。職員研修も実施している。教科を通じて、全てを網羅する教科書はない。教科書にない部分は教育委員会から指導し、各校において取り扱っていくものと考えている。このことが、地域の実態に応じた教育行政であると考えている。強く関心を持っていただき、議論していただいていることについて、感謝したい。委員の意見は4対4で拮抗している。教科部会が大修館を第一希望としているので、大修

館とするのはいかがか。また、心の性についても、このたびの審議を踏まえて、運用についての付帯意見を付けることを提案したい。教科保健体育、種目保健体育については、「50大修館」を採択することでご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【付帯意見を付けた上で、50大修館を採択】

【 技術 】

中田教育長：技術については、2東書、6教図、9開隆堂の3社である。委員の皆様からご意見を賜りたい。

飯島委員：技術も各社が学習目標を示し、また章末に学習のまとめが設けられている部分については、評価できる点であり、甲乙つけがたい。東書を見ると、他社と同じくらいのスペースに、多くの情報が載っており、充実している一方で、子どもたちが処理しきれない懸念があり、取扱いには工夫が必要である。私の着眼点としては、日常生活に深い関わりがある情報セキュリティやSNSに関して情報モラル、著作権の扱い等が、非常に具体的に、スペースを割いて書いている開隆堂が、良いと思う。

古島委員：私も開隆堂が良い。飯島委員からもあった情報モラルやセキュリティに関する内容が比較的多く、投資としても教育のICT化を進めていくにあたり必要な情報であり、また、生駒市特有の課題に対しても、この点は無視できないと思う。

レイズ委員：情報モラルに注目してみると、各社とも4～5ページを割いて取り扱われている。中でも教図と開隆堂が、中学生にとっても、して良いこと悪いことがイラストと共に丁寧に記載されていて良いと思った。東書にも書いているが、文字が多めでビジュアルが少ない。東書の巻末に、プログラミング手帳がついている。この部分のみ切り離し可能で、スクラッチ等を用いてプログラミングができる教材になっている。教図が分かりやすかった。208ページからプログラミングについて、大きな字と図を付けて分かりやすくなっていた。特定のビジュアルブロック型プログラミング言語が使用できるように分かりやすく示されている。授業でどれくらい扱われるのかはわからないが、良い教材だと思った。また、私は本職で企業広報に携わっているが、メディアについての説明は少し言葉足らずな印象である。一般的にはインターネットやテレビといった媒介するものをイメージするが、開隆堂ではメディアとは「情報を相手に伝えるための橋渡しをする媒体や手段」と記載されている。東書、教図では、メディアには3種類あり、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等の情報メディアと文字、図形、音声、画像等の表現メディア、DVDやメモリカード等の伝達メディアと広い範囲で紹介されている。開隆堂は媒介す

るものと、文字音声静止画もメディアであると記述されていて、より正しいと思う。総合的に、開隆堂が良いと思う。

坪井委員：私も総合的に考えて、開隆堂が良い。手を動かし作業する科目なので、レイアウトや段組みが見やすい。アンケートに、東書には無駄なイラストがあると書いてあり、よく見ると、パラパラ漫画が付いていた。私も無駄だと思う。

中田教育長：委員の意見を総合すると、開隆堂の意見が多かった。教科技術家庭、種目技術については、「開隆堂」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【208光書を採択】

【 家庭 】

中田教育長：家庭については、2東書、6教図、9開隆堂の3社である。委員の皆様からご意見を賜りたい。

イノブ委員：教図が良いと思う。当市ではコミュニティスクールの設置に向けて進んでいく中で、地域との関わりや協働について、一番丁寧に書かれている。26ページから31ページにかけて、地域の中での役割、地域の方と協力して何ができるかなど、5～6ページにわたって紹介されているのが良い。各单元において、問題発見から解決までのプロセスが6ステップで紹介されている。地域の方と協働する方法について、防災祭を取り上げ、問題発見、課題設定、計画、評価、改善、次の課題につなぐという流れが分かりやすい。子どもが主体的に取り組みやすい。家庭については、男女の性差による偏った記述が無いか見ていたが、特に目立つものはなかった。教図と開隆堂は積極的に男性が育児をしているなど、バランスが良かった。多様性やLGBTについては、開隆堂では、中学生同士の話し合いが記載されていた。また、SDGsについては、各教科書で取り入れられているが、No. 5のジェンダー平等を実現しようの項目について、開隆堂と教図に適切に書かれていた。また、No. 5に関連して、男女共同参画社会やワークライフバランスについて探したが、東書には記載がなかった。買い物について学ぶ際、フェアトレードについては、東書が薄いと感じた。バングラディッシュの縫製工場の事件やチョコレートの子供労働等まで踏み込んでいるのが、教図だった。以上のことから、教図を推薦する。

伊藤委員：私も教図と開隆堂が良いと思う。家事労働の男女の分担について、ロールプレイが組み込まれ、現状が紹介されている。教図では、家族形態の経年変化について、養子、里親制度等、多様な家族のあり方に配慮している点が良いと思った。児童虐待防止については、教図、開隆堂が手厚かった。児童相談所や全国共通ダイヤルが紹介されていた。教図は虐待

が疑われる場面も例示していて、中学生でも相談できることを伝えている。ただ、開隆堂は食品添科物の一日摂取許容量や遺伝子組み換え食品の安全性や環境への配慮についての説明が、短い記述の中にわかりやすく書かれている。この記述は開隆堂のみであった。「遊びを支える環境」について、自然の中で遊ぶことの重要性が書かれているのも、開隆堂のみであった。また、先輩からのエールというコラムも興味がわきやすく良い。

坪井委員：東書は全編を通じて問題解決型になっている。女性の性的役割分担について、私も注目したが、各社ともほとんどないが、東書は若干あるように感じた。一方、教図は男女の役割分担ではなく、家族の役割分担として記載しており、地域社会との役割も書いている。子どもの悩みの多くは、家庭内の問題がある場合が多く、そのような場合に、どこに相談したら良いか、21ページに書いている。外部に相談することを促し、援助希求欲求についても記載がある。教育の枠組み中で、家庭のこと、家族のこと、地域のことを考えていくというのは、家庭科しかできない。教図は、その点が非常に良かった。

飯島委員：他教科でもそうだが、一つの教科書にすべて求めるのは難しい。レイノルズ委員の発言にもあったように、フェアトレードについて言及がある。社会科で書いているから、家庭科で書かなくて良いというものではない。社会科では貿易の観点から、家庭科では消費者の観点から一つの問題に触れることが、望ましいあり方だと思う。他の教科・学年も含めて、人格形成をするという大きな尺度で評価する必要がある。坪井委員からあったように、問題解決型になっており、自分事として考えるという点で東書も良いと思う。郷土料理について、東書は97ページで奈良県は柿の葉寿司がとりあげられている。県にない場合もあれば、県内で複数ある場合もあるので、単にリストとするのではなくて、自分の地域では他に何があるかと考えることを促しているのが良い。また、他の教科との関連を示している部分が多いのが東書の良いところである。

西井委員：教科書として、子どもに考えさせる内容としては東書が良いと思った。しかし、坪井委員からは、性的役割が暗に入っているという指摘があったように、実際使っていくに当たっては、現場で修正していく必要がある。

寺田委員：中学生は男女とも美意識が強い。食べ物に対して、偏食や食べなければきれいになるという美意識があると危惧している。教科書の順番として、1番目に家族・家庭生活、2番目に衣食住の生活となっているのが、開隆堂と教図である。開隆堂では、食事の役割が中心的で、家族の一員として、健康に良い食生活をしていくということの大切さを訴えてい

る。ただ、東書の防災・減災手帳も非常に良く、捨てがたいと感じた。総合的に見ると開隆堂が良いと思う。

古島委員：私も、開隆堂と東書で悩んだ。寺田委員からあった、東書の防災・減災手帳が魅かれた。また、人間生活のベースを考えると、衣食住を始めに扱っており、学習内容が分かりやすいという点からも、東書が良いと感じた。

神澤委員：私は開隆堂が良いと思った。見開きが興味をひきやすい。

中田教育長：総括すると、教図が1名、開隆堂、東書が各3名である。原点に戻るが、すべての項目を網羅することはできないので、取扱い上の注意や課題もある。現場の教科部会の意見では、開隆堂となっていることから、その意見を尊重し、教科技術家庭、種目家庭については、9開隆堂を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

【9開隆堂を採択】

【英語】

中田教育長：英語については、2東書、9開隆堂、15三省堂、17教出、38光村、61啓林館の6社である。委員の皆様からご意見を頂きたい。

イノブ委員：各社ともコンテンツが充実していた。私の時代から比べると、1年生から会話するための英語を取り上げており、流れも自然な会話になっている。特に、相手の発言に対し、相槌がある点が良いと思った。会話のキャッチボールがあり、生きた英語だと感じた。私は、光村、三省堂、東書のいずれかが良いと思う。東書はサイズが大きいのは若干気になるものの、デジタルコンテンツが充実している。QRコードは全社見たが、東書はコンテンツが充実していて、スマートフォンでも見やすい。教科書の始めにイラストがあるが、QRコードを読み取ると、動画になり、導入として非常に面白いし、現場の先生の反応も良かった。光村のコンテンツは音声中心になっているが、その登場人物で、ネイティブという設定の方の英語がネイティブではなかった。英語の習得に当たって、ネイティブにこだわる必要はないと以前も言っていたが、お手本はネイティブが良いと思うので、少し残念だった。現行の三省堂は、クラスで使う英語表現がまとめられていたり、神社や落語等、日本文化を英語で紹介されていて良い。この3者で迷ったが、「読み」「書き」「聞く」のバランスを重点的に見ると、東書は単元が非常に分かりやすい。現在完了形等、今何を学んでいるのか分かりやすい。三省堂、光村はその表記が曖昧で残念に感じた。文法の紹介ページも東書が分かりやすい。丁寧に主語・動詞が明示されていて、見ているだけで勉強になる。三省堂や光村にもあるが、より丁寧なのは東書だと思う。3年間使えば英語が話

せるようになると思うので、将来が楽しみになる教科書である。以上のことから、東書を推薦する。

伊藤委員：私も東書が良いと思う。小学校も東書を使用しており、つながりが非常に良い。1年生の書体が、小学校の教科書のものと同じハンドライティング調で、読みやすく、真似るにも良い字体である。学年が上がると、新聞や書籍で使う字体になっている。少しずつ変えていくのが丁寧である。1年生からSDGsに触れており、学年が上がるごとにその内容が増え、3年生になると難易度が上がってくる。学校内のことを話すだけでなく、社会のことに目を向けて、そのことについて英語で話せるのが最終目標として見えている点が良いと思った。全体のバランスが良いので、東書が良い。

坪井委員：小学校で英語が導入されて、中学1年生でどのように接続していくのか、楽しみにしていた。私は東書か三省堂が良いと思う。東書は、1年生の書体が小学生の教科書と同じで、1年ごとに段階的に変えている。三省堂は、1ページの中にいろいろな書体があって見にくいのが、少し残念だった。QRコードのコンテンツは、東書が圧倒的に見やすい。文法の説明がしっかりとされていて、日本語で、今何を学習しているか明記されていて分かりやすいのは、東書である。また、ユニットアクティビティやレビュー等が、主体的・対話的でとても分かりやすく、教科書として優れている。レッツトークで会話が挙げられているが、これだけでやっていけば、英会話の教科書はいらないくらい優れている。特に、相手への声掛けや励ましが紹介されていて、子どもが使ってみたくなる表現が紹介されている。3年生では、防災について取り扱っており、教科横断的で良いと思った。現在のニーズをとらえている。一か所だけ、気になったのが1年生の92ページで、黒人の子どもたちは貧しいというイメージを与えかねない表現があったので、やや残念に感じた。総合的に考えて、東書が良い。

飯島委員：坪井委員の発言にあった、ある特定の民族、集団への偏見が与えられないかという恐れはある。この偏見を生みかねないという考えを、先生が持つておくことで、授業の中で修正ができる範囲だと思う。レイノルズ委員が指摘された、発音の違いについて、私自身はあまりわからないので、評価の仕方が勉強になった。また、伊藤委員ご指摘のフォントが変わっていくという視点も、勉強になった。私は、子どもが親しみを持てるかという点を意識したが、懇話会においてアニメチックな絵が出てくると評されている。子どもは意外と親しみやすさに敏感で、三省堂は登場人物の設定がリアルで、「インド出身、日本語が上達し、最近はよく弟と一緒に映画館に行っている」という細かな設定があるので親しみやすい。私の意見としては、東書か三省堂のいずれかが良いと思う。

古島委員：私は東書が良いと思う。英語の教科書はボリュームが多くなる傾向がある。限られた時間の中で、先生方の教材の取捨選択が求められる。すべてできたら話せるレベルになると思うが、なるべく適切に取捨選択していただきたい。東書は、評価をする際、先生だけではなく、子どもが自己評価できるようになっている。東書のCanDoリストが、他社と比べても非常に良い。研究報告書にも、段階的・系統的に3年間の学習が振りかえられている点が評価されている。

西井委員：内容的には、私も東書が良いと思う。ただ、サイズ感があまり理解できないが、事務局において、何か意図は聞いているか。

前田課長：東書は1時間1ページで構成されている。小学校での英語の教科化によって語彙・英文量が増加した一方で、年間授業時間数が増えていないことに配慮し、1ページ当たりの情報量を増やすため、A4版を採用しているとのことである。また、図やデザインがダイナミックに見える点を強みとしている。紙は軽量なものを使用しているようだが、現行の三省堂よりは各学年30gから50gほど重たくなっている。

西井委員：そのように様々な配慮があるなら良いと思う。重さについても、その程度なら問題ではないと思う。

神澤委員：A版は世界標準なので、子どもはB版に馴染みがあるかもしれないが、A版に慣れるのも良いと思う。更に、大きい方が、図も見やすい。また、英語だけ雰囲気が違うのは子どもにも刺激になって良いと思った。

中田教育長：委員の意見を総合すると、東書の意見が多かった。教科外国語、種目英語については、「東書」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【2東書を採択】

【 道徳 】

中田教育長：道徳については、2東書、17教出、38光村、116日文、224学研、232廣あかつき、233日本教科書の7社ある。委員の皆様からのご意見を伺いたい。

古島委員：私は学研を推薦する。扱われている素材が、今の生徒たちになじみやすいものが多い。また、著名人も多く扱われていたり、情報モラル関係についても、ネット依存に関する8項目の質問やSNSでのやり取りの注意点など、身近に感じる題材が多い。

レィルズ委員：セクシャリティの部分について、日文の3年生に101ページで「さまざまな性」について扱われている。教出3年生の48ページに性的少数者の人権問題で「性のありかた」について書かれている。道徳の教科書の評価するのに、いじめと情報モラルは欠かせないと思う。次に多様性、ジェンダーと考えている。いじめと情報モラルについては、どの教科書

を選んでも問題ないと思った。多様性について、多く取り扱っているのは光村で、1年生から異文化や考えの違い、2年生では民主主義と多数決の中の多様性、鬼の立場から読む桃太郎など、さまざまな多様性がある。また、性の部分は、道徳でも取り上げたいと考えているが、日文は性同一性障害の中村あたるさんの歌が紹介されていた。ジェンダー以外にも他者の気持ちを理解するという観点から、日文と東書はロールプレイを取り入れている。海外の学校でも演劇をすることで、自分と違う立場の気持ちを考える取り組みが行われている。ロールプレイは留意点が多いものの、他者の気持ちを考えるのに効果的である。総合的にバランスが取れているのは日文かと思う。

伊藤委員：どの教科書もかつての道徳のイメージを変えてくれる内容で、読み物としても良いものだった。特に、環境問題、国際理解、多文化共生、ジェンダー、情報モラルの観点で見たところ、日文か教出が良いと思った。環境の部分について、他社は自然の雄大さに敬意を持つといった内容が多かったが、教出は、釧路湿原を例に挙げ、自然の破壊と再生を通じた共生について触れているほか、矛盾をどう超えるかという観点で、自然公園や猿の駆除問題を取り扱っており、よく考えさせるテーマを選んでいると思った。また、食品ロスにも触れていて良かった。日文も襟裳岬の植生回復と昆布養殖についての文章で、同様のテーマに触れていた。また、国際理解については、発展途上国の取り上げ方がステレオタイプになりがちで出版社が多く、気になった。しかし、日文や教出では、他文化の良さや他の文化から学ぶという視点があり、良かった。外国人の人権にも触れており、教出は多文化共生の視点からアイヌにも触れていた。ジェンダーについては、教出が応援団の襷とボンボンについて触れていた。情報モラルの観点では、教出で出会い系の事例が紹介されていたが、総合的には、日文が網羅的で良いと思った。

寺田委員：私は日文を推薦する。今の子どもたちが人間関係で悩んでいると思う。いじめ、自殺、登校拒否等の問題につながっている。東書は生命尊重やいじめを取り上げている。日文は目標に「困難を乗り越える力」を掲げている。いじめ問題を3年間通して取り上げている。いじめの構造も紹介されていて、いじめの当事者の言語化できない気持ちを解説してくれていて、話し合う機会も設けられているので、子どもにとって救いになると思った。

坪井委員：私は、学研か日文が良いと思った。学研はアンガーマネジメントに触れていて良いと思ったが、保健体育で採択された大修館の教科書で、アンガーマネジメントがあったので、そちらで触れていただければいいかと思う。日文でもアンガーマネジメントがあり、重要な観点だと感じた。日文では、著名人の話と、同世代の中学生の話が、交互に配置されてい

たので、バランスが良いと感じた。日文は、性の多様性を101ページに書いているほか、プラットフォームがまとまっていて、最新の考え方が紹介されているのが非常に使いやすい。日文は別冊のノートが付いている。道徳は話し合うことが中心になるので、話し合った内容をノートに残すことで、1年間の学習を経て見返すと、自分の心の移り変わりを確認できる。学研は教科書の中にメモが付いていたが、日文の別冊ノートが良いと思う。以上のことから、日文を推薦する。

西井委員：坪井委員からあった、別冊ノートは評価のもとになる。子どもたちの学習の記録があることによって、分かりやすくなる。ただ、日文のノートは細かく、35時間の中で空くところも多いと思う。授業中に、投げ込み教材を活用するので、教科書だけを使っていくわけではない。空いているのが気になる子もいると思う。先生方にとっては、プリントを作成するよりノートが始めからある方が良い。評価の参考にする資料は、学研にもメモあり、こちらは単元ごとなので、評価者としては学研の方が良いと思うが、学校の意見が日文なので、先生方が良いなら、日文にするのが良いと思う。

飯島委員：前は文部科学省副読本の教材を使っているものもあったが、今回はそれぞれで良い教材を選んできている。35時間の中で教科書のすべてを学ぶことはできないので、生徒が時間以外で読んでみたいと思うような目次になっているのが良いと思う。その点では、東書、学研、日文が良い。また、分野としては、いじめをきっかけに学校へ行けない、命を落とすという課題があるので、いじめを重視したいと思う。入学してすぐの、中学1年生でいじめを最も多く扱っているのは、日文である。いじめに対する感受性を、1年生の時に育てたいという考えがあると思う。また、郷土については、日文は奈良筆を紹介している。身近なところに大切なものがあるという意識を育てる材料としては良い。総合的に日文が良い。

神澤委員：別冊ワークブックについて、量的には無理のある量だが、先生の判断でしやすいように扱っていただきたい。また、東書では体験型の学習として、ロールプレイを扱っているのが非常に良い。道徳については、今後、対話型、会話型の学習が有効であると思う。総合的に無見ると、日文が良いと思う。

中田教育長：委員の意見を総合すると、日文の意見が多かった。教科特別の教科道徳、種目道徳については、「116日文」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【116日文を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

・特別支援学級使用教科書の採択について前田教育指導課長から説明

中田教育長：特別支援についても、普通学級にて使用する教科書を使用するのが望ましいという説明であった。説明にあったとおり、特別支援についても生徒が在籍する当該学年で採択された教科書を使用することに異議ないか。

(異議なし)

中田教育長：以上をもって、中学校教科用図書及び特別支援学級が使用する教科書の採択についての審議を終了する。選定懇話会の皆様、調査部会や各中学校の先生方には、長期にわたり研究を重ね、貴重なご意見や報告書を作成していただいた。また担当部署においては、教科書センターを開設し、広く市民のご意見と教科書採択に必要な情報を収集していただいた。この場をお借りして、感謝を申し上げたい。今回採択した中学校の教科用図書については、新学習指導要領に対応した教科書となる。主体的・対話的で深い学びを実践していくとともに、小学校で実施しているプログラミング学習の充実や今年度末までには新たに生徒1人1台の情報端末が導入されるなど、様々な新たな指導が行われることを期待している。しかし、一方で採択した教科書がどのような教科書であれ、現場の先生方の指導にかかっている。子どもたちが健やかに育つためには、現場の先生方の熱意と努力と研究にお任せするしかないのが現状である。現場の先生方には、本日採択した教科書、付帯意見を学習活動の中で生かしていただき、充実した学習をすすめていただくよう、お願いしたい。

審議結果 【当該学年で採択された教科書を採択】

○閉会宣告

午後1時10分 閉会